

乳児と母親の心理的密着レベル及び身体接触が子どものアタッチメント形成に及ぼす影響（2）

—— 乳児期段階についての分析 ——

西中 華子

キーワード

母子相互作用 身体接触 タッチケア 育児支援 アタッチメント

要旨

本研究では、母親の子への心理的な密着レベルが身体接触のレパートリーにどのように関連し、さらに子のアタッチメント形成に影響を及ぼすのかについて検討を行った。その結果、アタッチメント形成期である乳児期においては、母子が密着していることが、子を抱きあやすといった安定的な身体接触につながり、アタッチメント形成に肯定的に働くことが実証された。加えて、ベビーマッサージやタッチケアに代表されるような身体接触は、本研究の調査対象であった、乳児期中期の段階におけるアタッチメント行動については促進的に作用することが明らかにされた。以上より本研究では「遊びのタッチ」の乳児段階における肯定的な影響が明らかにされたが、今後これが発達的な変化と共に子のアタッチメント形成に異なる影響を与えるかについて、母親の養育態度や不安といった要因も含めて検討していく必要があると考えられる。

問題と目的

Bowlby に始まるアタッチメント理論では、乳児のネガティブな情動表出に際し、母親が乳児の内的な状態に共感しフィードバックを行う調律的応答 (Gallese, Eagle, & Migone, 2007) を重視する立場が台頭しつつある。例えば、蒲谷 (2013) はこの調律的応答について、乳児のネガティブな情動表出への言語的、表情的応答として具体的行動スキル (「笑顔」という表情を浮かべながら、乳児の情動状態を言語化する「心境言及」を行う) を提案している。このように乳児のネガティブな情動表出に直面すると、ほとんどの母親が行う、抱き上げるなどの身体接触は、小児科学や保育学では実践の重要性が指摘されてきて

いる。例えば小児科学の分野において、子どもに対するストレス緩和効果 (Jean & Stack, 2009; Feldman et al., 2010) や、情動調節の機能 (Jean & Stack, 2012) などが指摘されており、親子関係に対する効果は、母子相互作用 (Feber et al., 2005) や、応答性と愛着 (Anisfeld et al., 1990) の促進が報告されている。保育学の分野においても、保育園における保育士による実践 (小島, 2020; 水岡, 2014) や、病児保育における実践などが報告されている (増井・雨ヶ崎・岩橋・河合・蔵本・和田・吉野・橋本・本田・稲見, 2016)。

さて、これらの身体接触は、世間一般においても、「タッチケア」や「ベビーマッサージ」などの用語で認知され、母親たちの関心を集めている。しかしながら、母子の身体接触における接触面の広さ、抱きしめ方の強さ、さすり行動の有無など具体的にはどのような身体接触が有効なのか、その際のアイコンタクトや話しかけなどの付帯行動も必要なのかなどについての実証的な検討は多くない。また、こうした身体接触についてアタッチメント形成の観点からは「母親から子どもへの影響」の重要性が指摘されているが、どのような特質をもつ母親がどのような身体接触を行う傾向があるのか、またそれらの身体接触が子のアタッチメントに及ぼす影響についても、同様に十分検討されているとは言えない。以上より、母子相互作用によるアタッチメント形成において、母子の身体接触の重要性と、身体接触の具体的行動レパートリーにおいて具体的にどのようなものが有効であることを明らかにすると同時に、どのような特質をもつ母親がどのような身体接触を選択し、それが子のアタッチメント形成にどのように影響していくのかについての検討が必要であると考えられる。

そこで、本研究では乳児の安定的なアタッチメントの形成に、母子の身体接触におけるどのような行動レパートリーが有効なのかについて検討を行うことを目的とする。またそれらの身体接触の行動レパートリーの生起頻度に、母子の関係性や母親の心理的特質がどのように関連するのかについても検討を行う。具体的に本研究では、母親の子への心理的な密着レベルが身体接触のレパートリーにどのように関連し、さらに子のアタッチメント形成に影響を及ぼすのかについて検討を行う。なお本稿では、0歳児のデータについて分析したものについて報告を行うものとする¹⁾。

方 法

- 1) 調査対象者 0歳4か月から0歳6か月の子をもつ母親497名から調査協力を得た。
- 2) 調査時期 2023年3月下旬に実施した。
- 3) 調査手続 調査会社(楽天インサイト)を通じて、インターネット経由で行われた。

4) 調査内容

- (1) 母子の身体接触 タッチ評定尺度(麻生・岩立, 2016)より、遊び場面における「安定的タッチ」「愛情的タッチ」「遊びのタッチ」、泣き場面における「なだめのタッチ」「愛情的タッチ」「侵襲的タッチ」の計38項目(Table1)を用い、日常生活において項目にある身体接触をどの程度の頻度で行っているかを尋ねた。評定は「いつもしていなかった(1点)～いつもしていた(4点)」の4件法であった。
- (2) 母子密着のレベル 山崎・杉村・竹尾(2002)の親子関係の親密さ尺度より「関係性の認知」における「親密」(11項目)を参考に、対象を親から子に変更して項目群を作成した(Table2)。評定は「全くそう思わない(1点)～非常にそう思う(5点)」の5件法であった。
- (3) 子のアタッチメント 小野島・大塚・青木(2017)によって作成された、乳幼児のアタッチメント行動指標より、「第2段階」を参考に項目群を作成した(月齢4か月:6項目, 月齢5か月:4項目, 月齢6か月:7項目)(Table3)。評定は「全くあてはまらない(1点)～よくあてはまる(5点)」の5件法であった。

5) 倫理的配慮

調査会社を通し、研究目的や方法、倫理的配慮等を文章で説明し、回答を以て同意を得たものとした。本研究は、神戸大学大学院人間発達環境学研究科における人を直接の対象とする研究に関する研究倫理審査委員会の承認を得た。

Table1. タッチ評価尺度 (麻生・岩立, 2016) (一部表現を変更)

遊び場面	泣き場面
〈安定的タッチ〉	〈なだめのタッチ〉
密着抱きをする	抱きあげる
抱きあげる	密着抱きをする
抱き変える	抱き変える
支え抱きをする	静かに揺らす
静かに揺らす	抱きしめる
	(背中などを)叩く
〈愛情的タッチ〉	さする
抱きしめる	
キスをする	〈愛情的タッチ〉
なでる	さわる
さする	なでる
さわる	荒っぽく揺らす
(身体の一部を)握る	(身体の一部を)持つ
(身体の一部を)持つ	(身体の一部を)握る
荒っぽく揺らす	キスをする
〈遊びのタッチ〉	〈侵入的タッチ〉
(背中などを)叩く	(身体の一部を)振る
くすぐる	マッサージをする
マッサージをする	突つつく
(身体の一部を)振る	くすぐる
(身体の一部を)つまむ	(身体の一部を)つまむ
突つつく	

Table2. 母子密着レベル測定のための項目群

子どもが落ち込んでいると私も落ち込む
互いに何も言わなくても、互いの気持ちを察している
子どもは、いちいち言わなくても私の気持ちをわかってくれる
子どもを喜ばせることは、私の人生の目標の1つだ
子どもに頼りにされたい
子どもは、自分の幸せよりも私の幸せを願っていると思う
子どもの敵は私の敵のような気がする
私が何をしても、子どもは最後はわかってくれる
私は子どもが考えていることがだいたいわかる
子どもが困っていたら、頼まれなくても積極的に助けようとする
子どもは自分を犠牲にしても、私の希望をかなえようとする

Table3. 子のアタッチメント行動測定のための項目群

月齢4か月
1.遊びに出かけ、またあなた(母親)の方へ戻って、近くで遊び、次に再び出かけるというようなことをくり返す
2.あなた(母親)がかなり遠くに行く、後を追ってあなた(母親)の近くで遊びを続ける(呼んだり運んでやる必要はなく、また遊びをやめたり機嫌が悪くなることもない)
3.あなた(母親)が抱き上げたり、抱きしめたり、可愛がる喜び、自分からもそれを要求する
4.あなた(母親)が部屋に入ってくると、自分の方から大きな笑みを浮かべてあなた(母親)に語りかけたり、手を振ったり、おもちゃを見せたりする
5.家で遊んでいるとき、あなた(母親)の居場所を知っていて、あなた(母親)を呼んだり、あなた(母親)が居場所を変えたりすると気が付く
6.恐がったり機嫌が悪くなっても、あなた(母親)が抱くと、すぐに泣くのをやめ落ち着く
月齢5か月
1.あなた(母親)と他人の声を聴き分けることができる(母親の場合のみ泣き声が静まるなど)
2.あなた(母親)によじ登る
3.あなた(母親)が離れると泣く、後を追う、またはその両方をする
4.膝の上や隣にいるときも、自発的にあなた(母親)とコンタクトを取ろうとする
月齢6か月
1.あなた(母親)と他の人の区別がつく(泣いているときも母親が抱かないと泣き止まない、など)
2.あなた(母親)の声が聞こえるとそれにつられて声を出す
3.あなた(母親)の姿が見えなくなると、のぞきこんで探す
4.膝の上や隣にいるときも、自発的にあなた(母親)とコンタクトを取ろうとする
5.あなた(母親)によじ登る
6.あなた(母親)が離れると泣く、後を追う、またはその両方をする
7.あなた(母親)が手をさしのべると、喜んで自分から体を乗り出す

結 果

母子密着のレベルから母子の身体接触を介して子のアタッチメントへパスを引いたパス解析を行った。モデルの適合度指標が基準に達しなかったため、修正指標等を参考にパスを引き直し、再度解析を行った。その結果、適合度は $GFI = .994$, $AGFI = .974$, $CFI = .994$, $RMSEA = .030$ となり、十分な値であると判断されたため、Figure1 のモデルを採用した。

分析の結果、母子密着のレベルは「密着抱きをする」、「抱き上げる」などの「安定的タッチ」を介して、子のアタッチメントの形成に正の影響を与えることが明らかにされた。加えて「安定的タッチ」及び、遊び場面において「くすぐ

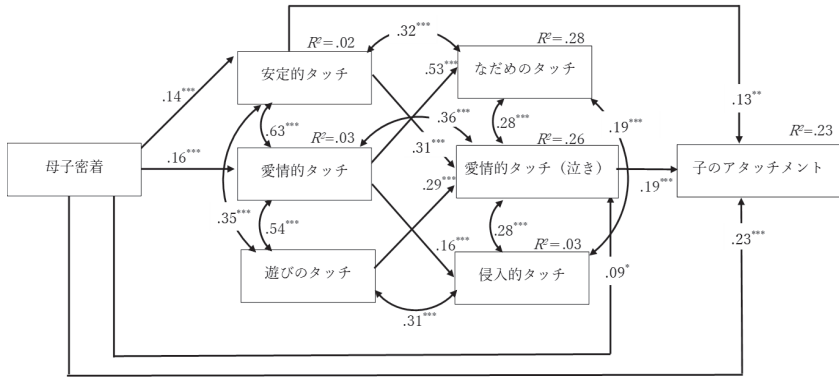


Figure1. 乳児と母親の心理的密着レベル及び身体接触が子どものアタッチメントに及ぼす影響（誤差項は省略）

る」, 「マッサージをする」, といった「遊びのタッチ」は, 泣き場面において「さわる」, 「なでる」といった「愛情的タッチ (泣き)」を介して, 子のアタッチメント形成を促進することが示唆された。

さらに母子密着は「キスをする」, 「なでる」, 「さする」といった「愛情的タッチ」へも正の影響を与え, 「愛情的タッチ」はさらに, 泣き場面において「抱き上げる」, 「密着抱きをする」といった「なだめのタッチ」及び, 泣き場面において「マッサージをする」, 「つつく」といった「侵入的タッチ」を促進することが示唆された。一方でこれらの「なだめのタッチ」及び「侵入的タッチ」は子のアタッチメントに影響しないことが示された。

考 察

本研究の結果より, アタッチメント形成期である乳児期においては, 母子が密着していることが, 子を抱き, あやすといった安定的な身体接触につながり, アタッチメント形成に肯定的に働くことが実証された。この育児期の母親と子の密着については, 育児支援の観点から必ずしも肯定的な意味合いでは認知されてこなかった (岩堂・松島, 2001など)。他方で西中 (印刷中) は, アタッチメント形成期である乳幼児期においては, 母子密着の程度が高いことが, 子への安定的・愛情的な身体接触を介して, アタッチメントの形成に肯定的に働く

可能性を指摘している。本研究においても、母親が、乳児と心理的に密着していると認知していることが、子を抱きあやすという身体接触行動を促進させ、それが乳児期のアタッチメント行動に影響を与えていることから、改めて乳児期における母子の一体感や密着感の有用性について明らかにされたと言える。

一方で、母子の密着感は通常場面における「キスをする」「さわる」といった「愛情的タッチ」を促進するが、この「愛情的タッチ」は「なだめのタッチ」や「侵入的タッチ」を促進するものの、子のアタッチメント形成には影響を及ぼさなかった。加えて、遊び場面における「遊びのタッチ」は、泣き場面における「愛情的タッチ（泣き）」を介して、子のアタッチメント形成を促進することが示唆された。西中（印刷中）によると、不安傾向の強い母親ほど「愛情的タッチ」や「遊びのタッチ」を多く行い、中でも乳児期における「遊びのタッチ」は、幼児期段階の子のアタッチメント形成を抑制する可能性について明らかにしている。しかしながら本研究の結果から、ベビーマッサージやタッチケアなどに相当する「遊びのタッチ」は、4か月から6か月という乳児期中期の段階におけるアタッチメント行動について言えば、肯定的な効果をもたらすことが明らかにされた。これは前言語期の乳児固有の特質であると考えられ、表情や触れ合い、ときには歌やリズムを伴ったマッサージといった、非言語的なメッセージが、言語的なメッセージよりも感受されやすいのではないかと推定される。

まとめと今後の課題

以上より、母親が、乳児との心理的密着が、子を抱き上げたり抱きしめたりといった身体接触行動を促進させ、それが乳児期のアタッチメント行動に影響を与えていることから、改めて乳児期における母子の一体感や密着感の有用性が明らかにされた。加えて、ベビーマッサージやタッチケアに代表されるような身体接触は、本研究の調査対象であった、4か月から6か月という乳児期中期の段階におけるアタッチメント行動については促進的に作用することが明らかにされた。

上述したように、乳児の段階で遊びのタッチを多く行っていることが、幼児期段階の子のアタッチメント行動を抑制する可能性について示唆されているが、西中（印刷中）はこの結果について、「遊びのタッチ」を行うことそのものの影響なのか、ベビーマッサージやタッチケアに限らずとも、子どものために

良いと考えられるものを強迫的に求めすぎてしまう母親の養育態度や心性、あるいはその養育態度形成の裏にあると想定される不安の高さの影響であるのか、判別し難いと論じている。本研究においては、「遊びのタッチ」の乳児段階における肯定的な影響について明らかにされたが、これが発達のな変化と共に否定的な影響へ転じるのかについて、母親の養育態度や不安といった要因も含めて検討していく必要があると考えられる。

付 記

本研究は JSPS 科研費 JP18K13111 の助成を受けたものです。本研究の調査にご協力いただきました皆様に心よりお礼申し上げます。

引用文献

- Anisfeld, E., Casper, V., Nozyce, M., & Cunningham, N. (1990). Does infant carrying promote attachment? An experimental study of the effects of increased physical contact on the development of attachment. *Child Development*, 61(5), 1617-1627
- Feber, S. G., Feldman, R., Kohelet, D., Kuint, J., Dollberg, S., Arbel, E., & Weller, A. (2005). Massage therapy facilitates mother-infant interaction in premature infants. *Infant Behavior and Development*, 28(1), 74-81.
- Gallese, V., Eagle, M.N., & Migone, P. (2007). Intentional attunement: Mirror neurons and the neural underpinnings of interpersonal relations. *Journal of the American Psychoanalysis Association*, 55, 131-175.
- Feldman, R., Singer, M., & Zagoory, O. (2010). Touch attenuates infants' physiological reactivity to stress. *Developmental Science*, 13(2), 271-278.
- 岩堂美智子・松島恭子（編）（2001）. コミュニティ臨床心理学 ―共同性の生涯発達―. 創元社
- Jean, A. D., Stack, D. M., & Fogel, A. (2009). A longitudinal investigation of maternal touching across the first 6 months of life: age and context effects. *Infant Behavior and Development*, 32(3), 344-349.
- Jean, A. D. L., & Stack, D. M. (2012). Full-term and very-low-birth-weight preterm infants' self-regulating behaviors during a Still-Face interaction: Influences of maternal touch. *Infant Behavior and Development*, 35(2012), 779-791.
- 蒲谷慎介 (2013). 前言語期乳児のネガティブ情動表出に対する母親の調律的応答 ―母親の内的作業モデルおよび乳児の気質との関連― 発達心理学研究, 24, 507-517.
- 小島賢子 (2020). 保育園における「気になる子ども」の行動変化に向けた支援の有用性と今後の方向性 ―タッチケア実施記録の検討を中心にして― 千里金蘭大学紀要, 17, 121-129.
- 増井朝子・雨ヶ崎純子・岩橋ゆう子・河合雅子・蔵本由起子・和田みずほ・吉野友美・橋

- 本素子・本田真美・稲見 誠（2016）. 病児保育室におけるタクティールケア（タッチケア）の試み 病児保育研究, 7, 63-67.
- 水岡路代（2014）. 保育所でのタッチケアの試み チャイルドヘルス, 17, 767-769.
- 西中華子（印刷中）. 乳児と母親の心理的密着レベル及び身体接触が子どものアタッチメント形成に及ぼす影響（1） 芸術と教育, 8
- 小野島萌・大塚己恭・青木紀久代（2017）. 乳児期の発達のチェックリストにみるアタッチメント行動 お茶の水女子大学心理臨床相談センター紀要, 19, 61-69.
- 山崎瑞紀・杉村和美・竹尾和子（2002）. 「親子関係の親密さ」尺度の構成、及び発達差の検討：日本的相互協調性の視点から 日本青年心理学会大会発表論文集, 10, 76-79.

注

- 1) 1歳児以上のデータ分析については、西中（印刷中）を参照。